

## 第 68 回 東海財界倶楽部例会

### 起業家魂が根付く東海地区が 日本経済を牽引する

中部財界フォーラム社の異業種交流会「第 68 回東海財界倶楽部」令和 8 年最初の例会が 2 月 3 日、名古屋市東区のホテルオークラレストラン名古屋 14 階 光の間で開催された。この日、上口洋司（かみぐち・ひろし）・日本銀行名古屋支店 支店長が講師を務め、「最近の金融経済情勢と今後の展望」の演題で、国内外の経済の現状や今後の見通しについて解説した。また当地に赴任しての約半年間で感じた東海地区の経済について語った。参加した企業経営者ら約 30 人が熱心に聞き入った。



日本銀行名古屋支店 上口洋司支店長

上口支店長はまず主要国における銀行券の発行枚数や偽札について国別で比較した後、日本で偽札の流通が少ない理由について触れた。

「我が国で偽札が少ない背景の一つに、綺麗なお金が使われているということが言われています。しわくちゃのお札とか落書きされたようなお札が使われることはほぼない」。そして「しわくちゃなお札や落書きされたお札だと、いくら偽装防止技術を凝らしてもその力が発揮できなくなる」とお札に対する取り扱い方が偽札流通量の少なさの背景になっているのではと話す。

また日本銀行の役割として「世の中に流通しているお金はその過程で何度も日本銀行に環流して来る。その際、再流通に適さないものを裁断し、世の中に流通するお金をクリーンにして品質の高い状態を維持する」ことは名古屋支店でも日々行っている作業であること、「日本では丁寧にお金を取り扱う習慣が根付いている」そして「お金を丁寧に扱うということは、偽造対策としてとても大切」であると伝えた。

その後、世界経済の中で成長している半導体や AI 関連企業の売上、設備投資の推移、国別・地域別の経済情勢を示した資料をもとに解説。米国の関税措置をはじめとする各国の通商政策、国内の賃金や物価の動向、人手不足の問題に対して、様々な切り口のグラフ資料を示しながら、世界経済の動向が今後どのように日本経済・東海経済に影響を及ぼすのかなどについて解説した。

上口支店長は講演の最後に当地の経済に関して次のように語った。

「当地に赴任して、約半年ですが、当初は米国の関税政策が歴史的にも類をみないような政策対応であり、不安を抱えながら当地に着任いたしました」と当時の世界的に混迷していた経済情勢を回想。その中で東海地区の印象として「当地経済はそういった逆境の中にあっても緩やかながらもしっかりと回復を続けているということに驚いた」と感想を述べ、「当地経済の底力やしなやかさ、強靭さといったものを改めて感じました」と東海地区の企業努力を讃えた。

そして「皆様は、これまでも数多くの画期的なイノベーションを生み出し、事業ポートフォリオを変革させながら、幾多にわたる逆境を乗り越えられている。今年も起業家魂が根付く皆様方の取り組みによる当地経済の発展が我が国の経済を牽引していくことを期待しております」と東海地区の今後のさらなる躍進に願いを込めて講演を結んだ。

講演後、丹羽司一・学校法人佑愛学園理事長の新年の挨拶と力強い乾杯の音頭で懇親会がはじまり、名刺交換など親睦が深められていった。



日銀名古屋支店 上口支店長の解説に聞き入る参加者